パウロの
エペソ人への手紙

語り直し、
解き明かし、
今日のために。

GOOD NEWS

パウロのエペソ人への手紙

語り直し、解き明かし、今日のために。

Hans-Jörg Ronsdorf

天がこれほど高いように

本書について

この本は、エペソ人への手紙を自分の言葉で言い換えたもの、つまり説明を加えながら語り直したものです。分量は、伝統的で逐語的な聖書翻訳における元の聖書本文の、およそ三倍の長さです。この文章は聖書本文に取って代わるものでも、それを改善するものでもなく、聖書本文をよりよく理解し、生活に生かすための助けとして書かれています。

ドイツ語版　第1版　2019年10月

© Hans-Jörg Ronsdorf – 著作権はすべて著者に帰属します

www.hans-joerg-ronsdorf.de

Albis 6 ½

87477 Sulzberg

hj-ronsdorf@t-online.de

ドイツ語版のISBN 978-3-9820715-2-7

エペソの弟子たちへ――はじめに

私がこのパウロの手紙に付けた標語「天がこれほど高いように」は、空っぽの言葉ではありません。高い山の上から四方八方、地平線まで見渡せるように、この手紙はあらゆる方向を見晴らす展望台のようです。どこに目を向けても、御子キリストにある神の恵みと愛に出会います。これは**過ぎ去った永遠に始まり、神とキリストの永遠の御国、神の新しい世界へと導く、比類のない恵みです**。この手紙を一気に読むと、何度も立ち止まって、こんな神を私たちは受けるに値しなかった、と思わずにはいられないでしょう。

ほかの聖書箇所を軽んじるつもりはありませんが、私はこの手紙を新約聖書の頂点と呼びたいと思います。この手紙に惚れ込んだのは、私だけではありません。神学者たちはこの手紙を、「パウロの書いたものの冠」、「最も神々しい作品」、「あらゆる手紙の中で最も王者らしい手紙」、「この手紙は純粋な音楽だ……ここで読むのは、歌う真理、音楽をつけられた教えである」と呼んでいます。「エペソ人への手紙は、これまでに書かれた最も重要な文書の一つである。」

この手紙は、ほかにほとんど例がないほどに、**キリスト教の信仰の**本質と起源と視野、その豊かさと影響を描き出しています。その信仰は、死んで、よみがえり、王座に就かれた神の御子に錨を下ろしています。中心にあるのは、私たちに向けられた神の恵み深い救いのみわざです。神は多くの者を一つにされます。神は教会を造られます。教会は、神が住まわれる地上の家となります。失われた人々が新しい人となります。手紙の後半は、新しい人の生き方と日々の暮らしをテーマにしています。人生のあらゆる関わりの中で。

この手紙が書かれた時期と受取人

ここで語れることはたくさんあります。けれども、それについてはほかに良い本が十分にあります。この手紙は、紀元62年にパウロによって書かれました。獄中からです。宛先は、小アジアの、ローマのアジア州の諸教会で、その州都がエペソでした。人口二十万人を超える、小アジア三大都市の一つ。活気にあふれた町でした！地理的な位置と交易路のおかげで、経済と宗教と政治の中心地。多くの民族のるつぼ。それはまた、実にさまざまな宗教と祭儀のるつぼでもありました。どの家にも小さな家の偶像があり、毎日いけにえがささげられていました。占い師、魔術を行う祭司、神託を解き明かす者たちは、一目置かれる商売でした。皇帝礼拝も、見過ごせない位置を占めていました。けれども、一人の神、正確に言えば一人の女神が、すべてにまさっていました――狩猟と純潔の女神、アルテミス（Artemis）です。彼女はゼウス（Zeus）の娘で、アポロン（Apollon）の双子のきょうだいでした。ローマ人のもとではディアナ（Diana）と呼ばれました。彼女は女性や少女たちを、特に出産のときに守りました。その見返りとして求めたのは忠誠で、人々はそれを、古代最大級の神殿の一つであるエペソの神殿で示すことができました。パウロは、この女神がエペソでどんな役割を果たしていたかを、身をもって体験しました。パウロは、町とその地方で大きなリバイバルを体験し、いや、それを引き起こした張本人でした。けれども、そのために多くの苦しみも受けなければなりませんでした。使徒の働き19章を読んでみてください。

エペソのクセノフォン（Xenophon von Ephesus）は、現存する数少ない古代の恋愛小説の一つ、**エペソ物語**（Ephesiaka）を書きました。おそらく1世紀に成立したものです。この短い小説の初めと終わりには、アルテミス祭儀の生き生きとした姿が描かれています――ちなみにこの祭儀は、もっぱら女性たちによって執り行われ、取り仕切られていました――「ちょうどそのころ、その地で恒例のアルテミスの祭りが祝われていた。町から神殿まで

は七スタディオン（1.3キロメートル）ある。その土地の娘たちは皆、最上の装いをして、厳かな行列を組んでそこへ向かわなければならなかった〔…〕。この祭りで若い娘たちの花婿を選ぶのが習わしであったので、土地の者もよそ者も、見物人の数はおびただしかった。行列は整然と進んでいった――先頭には祭具、たいまつ、籠、香、その後に馬と犬、また狩りと戦の道具が続いたが、大半は平和な道具であった。〔…〕行列が過ぎ去ると、群衆はみな、いけにえをささげるために神殿へと流れ込んだ。」

小説の終わり、主人公たちが何年も後にエペソへ帰って来る場面で、彼は「彼らは上陸するや否や、そのままの姿でただちにアルテミスの神殿へ行き、多くの祈りをささげ、いけにえをささげ、奉納物を献げ、女神のために碑文を刻んだ板も立てさせた」と書いています。

アルテミスは、いわばエペソの守護女神で、社会のあらゆる層に影響を与えていました。町のこうした全体像を思い浮かべると、この手紙は私たちにとってずっとわかりやすくなります。人々は、目に見えない神々の力や勢力が働きかけてくることを恐れていました。しかしパウロは、それらすべての力の上に高く上げられ、それらに勝利されたキリストを宣べ伝えます。

21世紀にも通じるのか？

パウロが神から啓示を受け、神の御霊の霊感によって書き記した真理は、時代を超えています。それはいつまでも変わりません。ここで扱われているのは、神と神のキリストです。すべては、始まりも終わりもないこの方を中心に回っています。

現代の偶像礼拝は、偶像も神託も血のいけにえもなしに成り立っています。けれども、偶像に仕え、いけにえをささげることそのものは残っています。少し形は違っても、核心は同じです。権力とお金とセックスへの執着も残っています。そこに、気晴らしと娯楽を果てしなく提供するデジタルの世界が加わります。現代の偶像礼拝は、神々をなだめたり呼び求めたりするのではなく、人間自身をなだめて、その消費欲を徹底的に満たそうとするのです。

ご自分で確かめてみてください！エペソ人への手紙は、こうした世の状態を容赦なく分析しています。パウロが今日この手紙を書いたとしても、内容は変わらないでしょう。そしてこの手紙は出口を示しています。文字どおり天から来る、もう一つの生き方も。

パウロがもたらしたのは新しい宗教ではありません。彼がもたらしたのはキリストであり、それによって新しい人でした。そして、人生を支配する力から解き放たれ、新しいいのちへと向かう自由でした。

手紙の内容と構成

第1部：1〜3章　教理の部（教義的な部分）

区分	内容
キリストにあって与えられた救いの立場――救いの直説法	
1章	
1〜14節	神への賛美と礼拝：神がご自身のために計画し行われること、また私たちに与えてくださったもの；宇宙に対する神のご計画：キリストがすべてのもののかしら、そして私たち教会がそのからだ。
15〜23節	私たちが知るべきこと：まず神ご自身、望み、私たちのうちにある神の相続財産、そしてキリストの復活に現れた、私たちのための神の大いなる力。
2章	
1〜10節	かつてと今――神の救い：霊的な死から、天上におけるキリストにある新しい救いの立場へ。
11〜22節	ユダヤ人と異邦人の隔てはもうない：両者は一人の新しい人となり、神殿となる。
3章	
1〜13節	諸国の民の使徒の特別な務め：世界中に広がる新約聖書の教会、神の永遠のご計画としての「新しい」神の民。
14〜21節	私たちが祈ること：御霊の力を求めるとりなしと賛美、イエスの愛を知ること。
第2部：4〜6章　実践の部――ふさわしく生きる	
新しい人の日常――救いの命令法	
4章	
1〜16節	一致への勧め：からだの賜物と部分、そしてからだの成長。
17〜32節	新しい人：まったく違う生き方。
5章	
1〜21節	神の子どもとして生きる：神に倣う者としての言葉と歩み、世との対比。
22〜33節	キリストと教会：夫と妻の結婚の模範。
6章	
1〜9節	親と子――奴隷と主人。

10〜24節	神の武具：霊の戦い。

あいさつ 1:1-2

この手紙を書いているのは、ほかでもないパウロです。私は使徒として、すなわち栄光を受けた神の子であり人の子であるイエス・キリストから直接任命されたしもべとして、これを書いています。私がこの方の使者であるのは、この方のみこころによります。州都エペソにいる聖徒たち、愛する人たち、またローマのアジア州全体にいるあなたがたに書いています。心の底から書いています。イエスに従うすべての人と同じく、神にささげられた聖徒であるあなたがたに。心から信じている人たちに。あなたがたは皆、**キリストにあって**根を下ろし、錨を下ろしています。キリストと一つにされて。いつまでもキリストと結ばれて。私たちの天の父である神と、その御子、私たちの主イエス・キリストが、尽きることのない天の泉から、日々の暮らしのための恵みと平安をますます豊かに与えてくださるよう、私は切に願っています。毎日。私たちがゴールに着くまで。

天において、キリストにあって、あふれるほど恵まれて 1:3

共に、そしてできるだけたびたび、私たちは私たちの神をほめたたえます。私たちの主イエス・キリストの父を。神がすでに今日、考えうるかぎりのあらゆる霊的祝福を私たちに与えてくださったことを、私たちは驚きと感謝の心で受けとめます。恵みを受けた者として私たちが受け取り、味わい、体験できるものはすべて、神が与えてくださいました。聖霊を通して私たちに届き、聖霊によってのみ体験できる祝福です。すべては**天上の世界**で私たちに与えられました。キリストがおられるところで。すでに今、日々の暮らしの中で、私たちはこの祝福を持っています。キリストは天の栄光の中に住んでおられます。そしてただキリストにあってのみ、この祝福は私たちに与えられました。そこ、天の世界で。このことには、あとでまた触れます。**すでに今**、私たちはこの天の祝福の富を持っています。そしてその中に生きています。やがては、目に見える栄光の中で、完全に。これらすべてについて、これからもっと詳しくあなたがたに伝えたいと思います。

祝福の一つひとつ：子とされるために選ばれた 1:4-5

このすばらしい、計り知れない祝福の富は、宇宙が始まる前から、すでに私たちに約束されていました。私たちの誰もまだ存在していなかったときに。すべては神から――私たちからではなく――始まったのです。神は、時の始まる前から、すでに私たちを選んでおられたのです。福音を信じる私たちを。私たちが聖く、傷のない者として、神の愛の交わりの中に移されるために。神の優しいまなざしのもとで、神と共に生きるために。愛されている者として、神の愛に動かされて、私たちは聖く、非難されるところのない生き方をしたいと願います。神が私たちを、神の王家の娘たち、息子たちという立場に就けることを、あらかじめ定めておられたからです。神はそれを、ご自分の御子を通して行われました。私たちは神にとって、御子のような者となるはずだったのです。御子が父にとって尊いのと同じように、私たちも神にとって尊い者となるはずでした。**神ご自身のために**、神の心のために。神がそれを喜ばれるからです。それが神のみこころにかなうからです。神はご自分を与え尽くす愛だからです。神は私たちを、ご自分の天の家族の交わりに迎え入れてくださいました。

受けるに値しない私たちが神の息子、娘として迎え入れられたことが、神の恵みを最も明るい光の中に輝かせます。私たちは、神の栄光ある恵みがほめたたえられるために置かれているのです。私たちがそうなったのは、ただ恵みによるからです。神は、愛する御子にあって、私たちをそれにふさわしい者としてくださいました。神は、御子に注ぐのと同じ愛を私たちに注いでくださいます。

恩赦、贖い、赦し 1:6-8

けれども、私たちはふさわしくない者でした。まず、私たちに何かが起こらなければなりませんでした。私たちは自分の力では――神の恵み深い介入なしには――決して神の愛の交わりに入ることはできなかったでしょう。私たちには贖いが必要でした！私たちは自分の罪の中に捕らわれ、罪責を負っていました。贖いはイエスの血によってもたらされました。神の愛する御子の死によって。御子のささげ物が、私たちの罪を永遠に取り除きます。かつてのエジプトでのように。過越の子羊の血が、イスラエルに解放をもたらしました。今、神は私たちのすべての罪とすべての不従順を赦してくださいました。神の恵みの富がそれほど大きいからです。神はこの恵みをあふれさせてくださいました。私たちには、それがどうしても必要でした。しかも、たくさんの恵みが必要だったのです。私たちがこの恵みを声高らかにたたえることができるように、神はこのことについての悟りを与えてくださいました。こうして私たちは、贖いの恵みを何度でも新たに、ますます深く知ることができます。けれども神は、私たちにとってすでに十分であったはずのことよりも、はるかに多くのことを知らせてくださいました。

みこころの奥義 1:9-10

神はご自分の息子、娘である私たちに、永遠の計画とご決意までも打ち明けてくださいました。神は、この世界と全宇宙のためにご自分が何を計画されたのかを、私たちに知ってほしいと願っておられます。それは、人間が罪を犯して失われた後に立てられた非常時の計画ではありませんでした。そうではありません、神はこの永遠のご計画を、私たちが失われ罪に陥るはるか前から、そしてそれにもかかわらず、持っておられたのです。この永遠のご計画は、今ではもう、ほんの一握りの特権を持つ人だけが知ることのできる秘密ではありません。いいえ、神の娘たち、息子たちは皆、それを打ち明けられています。神は心の奥底で、この世界のために愛と祝福のすばらしい計画を実現することを、大いに喜んでおられます。人間を支配し形づくってきたほかのすべての時代が過ぎ去る、その時が来ます。そのとき、すべては神のキリストによって満たされ、形づくられます。かしらであるキリストから、祝福が地の果てにまで流れ出ます。キリストが導き手となられます。混沌の中でばらばらになっていたすべてのものを、ご自身のうちに一つにされます。キリストはすべてのものを、再びあるべき場所に戻されます。本来一つであるべきものを、一つに結び合わせます。それは全宇宙の救いを意味します。キリストは、目に見える臨在によって天と地を一つにされます。全地に広がる新しい、よりすばらしいエデンが、かつてあったすべてのことを忘れさせます。

キリストの永遠の王国における私たちの受け継ぐ分 1:11-12

キリストにあって、私たちは神の王家の息子、娘として、神の相続人にも任命されました。かつてイスラエルの12部族に、くじによってカナンの地の相続地が割り当てられたように、この大いなる天の相続財産、永遠の所有地が、キリストにあって私たちに割り当てられたのです。私たちは神ご自身によって、時が満ちるこの栄光の時を共に経験するよう、あらかじめ定められています。すべてが向かっていく、その時を。私たちはキリストと一つになるのです。私たちは貴族に列せられ、キリストの栄誉ある座を分かち合うのです。キリストがすべてのもののかしらとなる、その時に。こうして神は、私たち自身よりもさらに大きな喜びと満足を得られるのです。これは今すでに神の栄光と恵みをたたえていますが、その日が来たときには、なおいっそうたたえるのです。神は、キリストにあって私たちをご自分のもとに連れて来ることで、まことにご自分自身に贈り物をされたのです。

この知らせはどのように私たちに届いたか 1:13-14

この相続財産を、すでにメシアを待ち望んでいた私たちユダヤ人が受けました。けれども今日では、それは全地の諸国の民であるあなたがたにも当てはまります。あなたがたは福音の中で、まことの生ける神についての真理に出会いました。それは、イエス・キリストにある救いと贖いについての良い知らせです。あなたがたはこの福音を受け入れ、信じました。神はあなたがたの信仰に応えてくださいました。神はあなたがたを、ご自分のものとして受け入れてくださいました。そして、ご自分のものに確かな証印を押してくださいました。この証印こそ聖霊です。聖霊は、すでに預言者たちによって、またイエスによって、私たちに約束されていました。聖霊は、私が今お話しした大いなる相続財産に対する、神の最も尊く最も確かな手付金です。まるで神が、こうした方法で私たちの将来を保証しなければならないかのように。なんと恵み深い方でしょう。それはいわば担保のようなもので、これによって私たちは今、来たるべき世でキリストと共にいるという確かさを持っています。いつの日か、神の息子、娘として、永遠のいのちの中で正当な相続財産を受け継ぐという確信です。限りなく善意に満ちた神の救いのご計画がそのとき成就すると、それは何よりもまず、神の誉れと栄光と、神ご自身の喜びのためになります。それは神から出て、神によって、神のために成し遂げられたのです。

パウロのとりなしの祈り 1:15-16

私は、あなたがたが生きている生き生きとした信仰について聞きました。また、あなたがたがすべての聖徒たち、神のすべての娘たち、息子たちに分け隔てなく抱いている愛についても。それを私はとても喜んでいますし、私の宣教によって生まれたすべての群れについても、同じことを願っています。私は毎日、祈りの中で、あなたがたのことを神に感謝しています。ほかのすべての人たちのためと同じように、あなたがたのためにも祈っています。

神を知るための祈り 1:17

特に私は、あなたがたが神を知るようにと祈っています。神が御霊によって、**神ご自身を**知ることをあなたがたに与えてくださるように。そして、ますます深く理解することを。私たちの神を知ってください！神があなたがた一人ひとりにとって、どなたであり、どのような方であるかを。この方こそ、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父なのです。私が語っているすばらしいご計画は、この方から出ています。受けるに値しない私たちに与えられた、すべての良いもの、すばらしいものの源は、この方です。この神を、私たちはまず何よりも知らなければなりません。この方は、あなたがたが知っていたどの神々ともまったく違います。この方を、そのご性質のすべて、その豊かさと栄光において知ってください。何よりも、イエスにおいてこの方を知ってください。イエスは神のかたちです。御霊は私たちに神を現し、その栄光を示し、私たちの心の中で永遠の方を大きくしてくださいます。御霊なしに、私たちは神を知ることはできません。御霊が啓示してくださるとき、それは私たちの喜びとなり、神への礼拝となります。

望みを知る 1:18

こうしてあなたがたは照らされ、心の目で、内なる人のまなざしで、キリストにある神の偉大さを見るのです。神の御霊によって、そして信仰によって。そのとき私たちは、神が何のために私たちを召してくださったのかを、はっきりと見ます。私たちの目指すゴールは、なんとすばらしいことでしょう。私たちの望みは、なんと大きいことでしょう。私たちは神の新しい世界で、かしらであるキリストと結ばれるのです。私たちが神の相続人であるだけでなく、神ご自身もこの相続財産を所有しておられるのです。それは神ご自身のまったく個人的な所有物で、まるで神も相続財産を受け取る一人であるかのようです。そして、それを楽しみにしておられるかのように。聖徒である私たち、神の娘たち、息子たちこそ、神の相続財産なのです。それはまさに、共有の相続財産です。この相続財産を完成させる神の栄光と豊かさを思えば、息をのむほど大きなものです。

私たちとキリストに現された神の力 1:19-20

私はまた、あなたがたのうちに働き、あなたがたのために備えられている神の力を、あなたがたが知るようにと祈っています。神が宇宙を無から存在へと呼び出された、その神の力と強さが、私たちが相続財産を受け継ぎ、永遠にその中で生きるとき、私たちのうちに力強く発揮されるのです。神が私たちのために注がれるこの神の力のわざは、すでに一度、はっきりと目に見えるかたちで現されました。神がご自分のキリストを恥辱に満ちた十字架の死から引き出し、よみがえらせたとき、その力は余すところなく発揮されました。そしてキリストを、すべてのものの上に、ご自分の右に、ご自分の王座に、天上の世界に着かせたときに。よみがえり、栄光を受けた人として、この最高の栄誉の座で、キリストは目に見えない天上の世界のあらゆる霊的な支配と権威に勝利しておられます。それらはこの座を自分のものだと主張しますが、その座にふさわしいのはただお一人、メシアだけです。このことは今や永遠に決着がついており、いつまでも変わることはありません。神に敵対する悪しき力は打ち負かされました。それらはキリストの前で震えています。キリストのほうが大きく、すべてのものがキリストに従わされています。こうしてキリストは、すべてのものの上に立つかしら、統治者、支配者なのです。すでに今そうであり、先に書いたように、やがてはすべての者の目に見えるかたちで。

教会とキリスト――かしらとからだが完全に一つに 1:21-23

神がこの崇高なキリストを教会のかしらとしてお与えになったとは、なんと偉大で祝福に満ちたことでしょう――ほとんど信じられないほどです。信じる者たちの交わり、世界に広がる教会は、キリストのからだです。かしらとして、キリストは養い手であり、守り手です。両者は一つの霊的な、現実の、完全な有機体です。この世の中で目に見えるかたちで。それどころか、こうしてキリストご自身も、ご自分の教会とのこの結びつきの中で完全なものとなり、満ちあふれるに至ったのです。かしらであるキリストは、イエスに従うすべての人から成るご自分の教会と結ばれ、この一致の中で、宇宙の隅々に至るまで、すべてを神の栄光で満たされます。

神が私たちを見いだされたとき、私たちはどんな状態だったか 2:1-3

神の力の現れは、あなたがたの将来の相続財産において初めて見えるものではありません。それは、神があなたがた一人ひとりと歩まれた歴史の始まりのときに、すでに必要でした。というのも、あなたがたは神との関係において、**死んでいる**も同然だったからです。神に背を向けて、あなたがたは自分勝手な人生を生きていました。多くの罪の中で、神に従わずに。あなたがたは、まことの生ける神から離され、いや、断ち切られたも同然でした。神なしに、あなたがたは**目に見えない闇の支配者**に引き渡されていました。そのことを、あなたがたは知りませんでした。自分は自由だと思っていたのです。この強大な君主とその使いたちは、人間の世界にまで影響を及ぼし、支配しています。世界史のどの時代にも、彼は影響を及ぼしています。彼は人々を植民地のように支配し、まことの神を忘れさせ、神に従わないようにさせるのです。私たちは皆、不従順の子らでした。私たちは不従順と罪を愛していました。神から遠く離れ、サタンに操られたこの社会に、私たちは皆属していました。それでも、自分の行いの責任は、私たち自身にあります。機会さえあれば、私たちはどこででも、罪深い欲望と情欲を心のままに満たしてきました。私たちの人生のすべては、どうやって自己実現するかを中心に回っていました。手に入るものは何でも手に入れました。自由だと思っていましたが、実は罪の中に捕らわれていたのです。私たちはこの世の霊を吸い込んでいましたが、生きながら死んでいたのです。それが、私たちが生まれながらに持っていた性質でした。神の目には、そのような生き方は、ただ神の御怒りに値するものでした。

神の愛は止められず、不可能を可能にする 2:4-7

けれども、この神は、私たちが受けるに値したのとはまったく違う仕方で、私たちに出会ってくださいました！神は――サタンとその手下たち、この世のあらゆる神々とはまったく違って――愛の神であるので、私たちに対して計り知れないあわれみに満ちておられます！神は、私たちが自分では決して抜け出せない、望みのない状態をご覧になりました。しかも、抜け出したいとも思っていなかった状態を。**神が介入されたのです――神は本当に私たちを愛してくださいました。**私たちをこの滅びの状態から解き放ってくださいました。神は私たちを、この罪の牢獄から愛によって連れ出してくださいました。私たちは背きの中で、霊的に死んでいたのです。私たちは神から離され、遠く隔てられていました。神のいのちの源から完全に断ち切られて。けれども神は、私たちをこの死の牢獄から解放してくださいました。神は、メシアが自ら引き受けた死からメシアと共に私たちをよみがえらせ、生かすことによって、私たちを引き出してくださったのです。キリストに働いた神の力はあまりにも強大で、私たちまでキリストと共にいのちへと打ち上げてしまったのです。こうして私たちは、神との新しい、現実のいのちの関係に入れられました。これこそ、望みのない滅びからの本物の救出であり、解放です！私たちの運命は決まっていたのに、神の限りないいつくしみが、私たちを解き放つ決定的な違いをもたらすのです。受けるに値しない恵みとは、こういうものです！私たちの神とは、こういう方です！しかし救いは、私たちがこれまで想像できたよりも、さらに大きく、さらに遠くまで及んでいます！神は私たちをメシアと固く結び合わせてくださったので、私たちはメシアと共に霊的な死からよみがえらされただけではありません。私たちは、メシアが神の右の座に着かれた**天上の世界**にまで、メシアと共に上げられたのです。そこで、キリストにあって、私たちも共に座り、神の御前で安らぐことが許されています。神はキリストにあって、私たちをご自分のもとに、ご自分の心のそばに引き寄せてくださいました。これはすでに今、現実です。私たちの日常の中で真実なのです。このことを知り、神の王家の娘、息子と

いう立場にあって、私たちは今、神のために生きています。こうして私たちは、天の勝利者の領域に移されています。この立場は、いつの日か、もはや信仰によってだけ生きられるものではなくなります。いつの日か、復活において目に見えるものとなるのです。私たちが新しい栄光のからだを受けるときに。この天の座から、私たちは神の新しい世界、私たちの主イエスの永遠の王国へと入って行きます。そしてそこで、キリストにあって、さらに多くの恵みの贈り物を受けるのです。神は私たちに対して、なんと恵みといつくしみに富んでおられることでしょう！**今日のためにも、明日のためにも**。その恵みは、来たるべき時代にも、永遠にも、私たちに対して尽きることがありません。

受けるに値しない恵みが、私たちを神の傑作にする 2:8-10

神のこの救出作戦は、すべて受けるに値しない恵みでした！私たちは何一つ貢献していません。私たちにできたのは、福音で聞いたとおりに、神とキリストを信じ、信頼することだけでした。**神の大いなる救いは、神の真実であり、神の賜物であり、神の贈り物なのです！**このことは、いくら強調しても足りません！私たちは当時それを望んでもいなかったし、神が何かに使えるようなことを成し遂げたわけでもありません。すべての栄光と誉れは、ただ神だけのものです！今、私たちは神の傑作、キリストにある神の新しい創造です！初めに人間は、生んで増えるために造られました。同じように今、私たちも神の新しい人として、良い行いを増やしていくことが許されています。その点で、私たちは実り豊かであるべきなのです。私たちが行う良い行いは、神がすでに備えてくださっています。それらは私たちの足もとにあり、行われるのを待っています。神が私たちにしてくださった良いことを、今度は私たちが人に手渡すことができます。人々が祝福され、神が栄光を受けられるために。ただ神だけが！

近くにいる者と遠くにいる者――両者とも和解させられ、神のもとに導かれた 2:11-16

諸国の民であるあなたがたは、自分がどこから来たのかを決して忘れないでください。あなたがたは、神からなんと遠く離れていたことでしょう。イスラエルの側から見れば、あなたがたは「無割礼の者」と呼ばれていました。イスラエルは神の契約の民で、割礼という契約のしるしを与えられていました。あなたがたは、メシアを待ち望むこともなく生きていました。メシアへの望みも、メシアを求める権利もありませんでした。イスラエルの市民権に近づく道も、まったくありませんでした。神がご自分の民イスラエルと結ばれた契約も、ご自分の宝の民に約束されたすばらしい約束も、あなたがたには当てはまりませんでした。**要するに、あなたがたは望みもなく失われていたのです。**一筋の希望もなく、いや、イスラエルのまことの神を知らずに、諸国の民の世界でさまよっていたのです。あなたがた自身はそうは感じていなかったでしょうが、それが真実です。けれども今、私たちユダヤ人にとっては思いもよらないこと、そしてすべての人にとっては受けるに値しない、驚くべきことが起こりました。諸国の民であるあなたがたは、キリストによって、神から遠く離れたところから、まっすぐ神の御前へと連れて来られたのです。それは、ただメシアの血によってのみ可能になりました。この方こそ、私たちのシャロームです！この方は、私たちイスラエルと諸国の民との間の平和です。この方が、私たちの間の隔て、隔ての壁を取り壊されました。この方は人となり、この隔てと壁をつくっていた律法の定めを無効にすることによって、それを成し遂げられました。この方は、イスラエルと諸国の民というこの二つを、平和のうちに一つにしようとされました。さらに、ご自身のうちで両者を一人のまったく新しい人に造り上げようとされたのです。**私たちは皆一緒に、今やこの一人の新しい人となったのです。**大切なのは個人だけではなく、共にあることです。この方イエスが、両者を一つのからだに結び合わせ、互いに和解させてくださいました。そして、両者を共に神と和解させてくださいました。この方が平和をつくられたのです。それを

どのようにして行われたか、あなたがたは知っていますか？どれほどの犠牲を払い、どれほどの代価で？あの恐ろしい十字架によってです！十字架の苦しみと十字架の死によって、この方はこの敵意をまさに殺し、滅ぼされたのです。私たちと神との間に立ちはだかっていたものを、この方は十字架で取り除かれました。

この知らせは届けられなければならない 2:17

十字架の知らせを携えて、メシアであるこの方は、ご自分の使者たちを通し、ご自分の御霊によって、全世界を巡っておられます。すべての人がそれを聞くべきなのです。遠く離れていたあなたがた、つまり諸国の民にも、また近くにいた私たちユダヤ人にも、このすべてを包み込む平和と和解が告げ知らされています。**神との平和、そして互いの間の平和！**これが福音の知らせです。

私たちは招かれている――大胆に御座の前に進み出る 2:18

三位一体の神、父と子と御霊が、イスラエルと諸国の民である私たちを、共にご自分の天の御前へ来るようにと招いておられるのを、想像してみてください。永遠の、全能の、聖なる、愛に満ちた神の御顔の前に進み出るようにと。私たちは、イエスを通して、聖霊の力と導きによって、神に近づきます。聖霊が私たちに力を与え、信仰と喜びに満ちた確信をもってそうするよう励ましてくださいます。少しも恐れることなく。地上の神殿で神に近づいた人々は皆、恐れに満たされていました。けれども、神は今や私たちの天の父です。神はご自分の息子たち、娘たちを愛しておられます！神の心は私たちに開かれています。

新しい故郷、新しいわが家――新しい家 2:19-22

しかも、すべてが私たちにとって最善のほうへと変わりました。諸国の民であるあなたがたは、もはや他国人ではなく、もはや家のない者でも、故郷のない者でも、二級市民でもありません。私たちは神の同居人となり、神の家族となりました。そうです、私たちは今、イスラエル出身の信者たちとも一緒に、神の家族として神の天の家に住んでいるのです。永遠の神は、初めからずっと探し求めておられた、地上でのいつまでも続く住まいを、ついに見いだされたのです。

この家は、イエスの使徒たちとその預言者たちという土台の上に建てられています。彼らは救いの宣教の初めに立ち、復活の証人であり、主イエスの使者でした。彼らは、私たちの主イエス・キリストの福音と教えをもたらしました。この家では、イエス・キリストが礎石であり、すべてがこの方に合わせて据えられています。**要石として、建物の安定を保証する方です。**この方にあって、家全体は完璧に整えられ、しっかりと組み合わされています。この家はキリストによってすでに完全であるのに、それでもなお成長し続けます。生きた有機体のように。主にある聖なる神殿へと成長していくのです。そこに住まわれるのは、ほかでもない三位一体の神ご自身です。諸国の民であるあなたがたも、今やそこに属しています。それは、あのとき、ペンテコステの日にエルサレムで、私たちイスラエル出身の者たちから始まりました。そしてその後まもなく、あなたがたもこの神の建築の生きた石となりました。私たちすべてを共に、この神の住まいへと建て上げてくださる聖霊によって。私たちは共に、神の住まわれる所となったのです。かつてそれは石でできた神殿でした。ただ一つの場所に。今や、神の神殿は全地に広がっています。いたるところで毎日、生きた石が神の神殿に組み込まれています。隔ての壁は取り壊されました――今、神殿が建てられているのです。

啓示され、パウロによって宣べ伝えられたキリストの奥義 3:1-7

私パウロは、捕らわれの身からあなたがたに書いています。けれども私は、そう見えるとしても、ローマ人の囚人ではありません。私は、私の主イエス・キリストの囚人であり、これからもそうです。この方がすべてを決めておられます。私の人生の一日一日を。諸国の民であるあなたがたのために、私は牢にいるのです。諸国の民であるあなたがたが今や神の息子、娘となることに我慢がならない、私の同胞ユダヤ人たちのせいで。けれどもキリストは、偶像礼拝の闇に絡め取られていたあなたがたに神の恵みを宣べ伝えるという務めを、私に託してくださいました。私はこれをすべて、自分で考え出したのではありません。それは超自然的な仕方で私に啓示されたのです。神の恵みについてのこの奥義は、今やもう秘密ではありません。私は今しがた、それを手短に書きました。これこそ、すべての人に隠されていたキリストの奥義です。神の古くからの民である私たちイスラエルにも。けれども今、神の御霊が、イエス・キリストの使徒たちと預言者たちに、それを余すところなく啓示されました。彼らは今それを知っていて、キリストとその恵みを大胆に宣べ伝えています。こうして私たちは皆、この奥義にかつて隠されていたことを知ることができます——諸国の民から出た私たちが神の共同相続人であること；諸国の民から出た私たちが、キリストのからだ、すなわちキリストの教会に共に組み入れられていること；諸国の民から出た私たちも、遠い昔にイスラエルが受けた約束に今やあずかっていること。今私たちが共に持っているすべてのものは、ただイエス・キリストにあって持っているのです。この方にあって、この方を通して、神は私たちを解放し、豊かに与えてくださいました。**福音こそ、キリストの奥義についての唯一の、信頼できる知らせです。**あなたがたはそれを信じて受け入れました。私はこの福音に仕える者であり、そのためにすべてをささげています。私が福音に仕える者とされたのは、神の恵みの賜物、受けるに値しない贈り物です。私のう

ちに働く神の力によって、私はそうあることを許されています。私はこの派遣の使命を、最後の日まで忠実に果たしたいと思います。

奥義が啓示されたのは、全世界に宣べ伝えられるため 3:8-13

自分の過去を思うと、私は本当に、すべての聖徒の中で最も小さく、最後の者のように感じます。この大きな使命について、私には何一つ誇れるところはありません。**私は、諸国の民であるあなたがたに、地の果てに至るまで、キリストの計り知れない富を宣べ伝えることになっているのです。**私の宣教を通して、それを聞く人ができるかぎり皆、この奥義について照らされるべきなのです。神がご自分の時にそれをどのように明らかにされたかを、彼らは知るべきです。そして今、福音を通してそれをすべての人に開いておられることを。それは、時の始まる前から、神の愛に満ちた心の切なる願いでした。けれども、キリストが来られるまでは隠されたままでした。それは、万物を造られた神から出ています。これで、私たちがどの神と関わっているのかが疑いなく明らかです——人間が考え出したどこかの神ではありません。いいえ、始まりを持たず、ご自身がすべてのものに始まりを与えた、永遠の方です。この方が、この奥義の創始者です。それは造られたものすべてに関わっています。神はそれをご自分の栄光で満たされます。最後に決めるのは神です。目に見えない天上の世界の権威や力や君主たちではありません。それらは、造られたものすべてを自分のものにしようとしています。そして人間を操り、滅ぼそうとしています。敵対する目に見えない力もまた神の被造物であり、かつては神の天の家族に属していました。けれども、その多くが神から離れ去りました。その者たちに今、ユダヤ人と諸国の民から成る、贖われ解放された教会を通して、神の深い救いの知恵が示されているのです。これらの力は、神が主の主であるキリストにあって成就された永遠のご計画を、自分たちが見抜くことも阻むこともできなかったことを、なすすべもなく認めざるをえません。自分たちと同じように罪に絡め取られていた人間が、今や神の家族の中に自分の場所を与えられるのを、それらは見ているしかないのです。私たちは、天に上り栄光を受けたキリストにあって、このすばらしい神の前に信仰によって進み出る喜ばしい確信と、完全な資格を持っ

ています。神の天の御座の前に。私たちは天上の世界に移されているので、その御座は、ひざまずけば届くほどの距離にすぎません。どこにいても、私たちはこの御座に近づくことができます――それはほんの一歩先にあるのです。このことも、力ある者たちは認めざるをえません。それらは、もはや自分たちの造り主の御前に出ることを許されていないのです。

牢にあり迫害を受けている私の苦しい状況のために、落胆しないでください。結局、こうなったのは、私があなたがたにキリストの奥義と富を宣べ伝えているからにほかなりません。そして、大胆に神に近づくという特権を。私がここで鎖につながれている理由である私の務めによって、あなたがたがどれほど祝福されているかを思い起こしてください。

霊的な力、キリストの内住、キリストの愛を知ることを求めるとりなし 3:14-19

私の身に何が起ころうとも、私はあなたがたのために祈ることをやめません。父の前にひざまずいて。父は創造主として、天の家族である御使いたちにも、私たち人間にも、すべてのものに名を与えておられます。父は――創造主として――すべてのものの上におられます。ですから、私たちの祈りの最初の、そして唯一の宛先は、この方なのです。

私は具体的に、あなたがた皆が神の**力**を受けるようにと願っています。神が栄光に富んでおられるのと同じだけの、霊的な力を。神の御霊が、この神の力を絶えず私たちの内なる人に注ぎ込んでくださいますように。そして私たちの魂の中で増し加えてくださいますように。

こうして、神の御霊の働きによって、あなたがたの心に、あなたがたの最も深いところに、あなたがたの思いに、**キリスト**が**場所を得る**ことができるのです。絶えず多くの声や物事が、あなたがたの心の場所を占領しようとしています。いつもキリストに優先権を与えてください。

こうしてあなたがたは、キリストの**愛**に根を下ろし、しっかりと錨を下ろすことになります。感謝をもって受け取り、また日々人に手渡していく愛、あなたがたをすべての聖徒たち、神にささげられたすべての人たちと固く結びつける愛です。

特に一緒に、交わりの中で、イエスの弟子たちが集まる多くの場所で、私たちは神の永遠のご計画の広さ、長さ、高さ、深さを、その全体を理解するのです。神のこの永遠のご計画を、繰り返し心に留めてください。そのご計画は、限りなく、比べようもなく大きな**キリストの愛**で満たされています。キリストの愛こそが、これらすべてを可能にしたのです。このキリストの愛は、私たちがいつか理解できるよりも大きいのです。その愛は、私たちを何度でも深く揺さぶり、心を打ち、礼拝へと導くことができます。この壮大なご計画を探り求め、愛してください。そうしないのは、神の娘たち、息子た

ちにとって恥ずかしいことでしょう。なぜなら、そうしてこそ私たちは、キリストと神ご自身とで満ちあふれるからです。**それはすでに今、地上にある天の一部なのです**。

私たちのうちに働かれる全能の方に、その民からすべての栄光を 3:20-21

なんという神でしょう！すべてのことがおできになる方。しかも、私たちが考え、計画し、望み、願い求めることができるよりも、はるかに多くのことを。私たちのうちに働く神の力によって。今日も、永遠にも。この方に、すべての誉れと栄光がありますように。神よ、あなたがどれほどの栄光をお持ちであるかを、私たちはただたたえつつ認め、礼拝することしかできません。あなたの教会のただ中、あなたが喜んで住まわれるあなたの家で、キリストにあって、すべての誉れと慕わしさ、愛と礼拝があなたのものです――今日も、明日も、いつまでも、永遠に。アーメン。

ここで手紙の前半が終わります。テーマは、神がどのように私たちを救い、あふれるほど祝福してくださったかでした。後半のテーマは、神が私たちの人生全体をどのようにひっくり返されるかです。神が介入してくださったことによって、私たちは新しい人になりました。そして、新しい人がどのように生きるのか、それが後半のテーマです。生活の多くの領域が取り上げられ、以前と以後が対比されます。大切なのは、私たちがそうであるものを生きることです。救いと恵みから、神のいのちを生きること。仲間のキリスト者と、周りの人々と、伴侶や子どもたちと共に。

愛に満ちた一致を生き、育み、守る 4:1-3

主イエスにある囚人である私は、神のすばらしい召しがあなたがたの日々の生活に目に見えるかたちで映し出されるよう、あなたがたを励まします。神は、あなたがたを、今キリストにあるあなたがたにしてくださいました。そのことを、私はこの手紙で今まで書いてきました。神は福音を通して私たちを召されました。あなたがたの生き方が、神のこのすばらしい召しと完全に一致するようにしてください。それは、イエスが生きられたように生きることにほかなりません。イエスに倣う者となってください。そのためには、共に暮らす中で、**謙遜**と**柔和**と**寛容**に貫かれた付き合い方を互いに心がけることが必要です。偉ぶったり、思い上がったりしないでください。言葉でも行いでも、誰も傷つけないでください。必要なら、相手に考え直す時間を与えてください。相手の立場に立ってみてください。神の愛によって、相手をその弱さや欠点ごと耐え忍んでください。**神ご自身も、私たち一人ひとりに対して、そうしてくださっているではありませんか。**

問題は、すべての聖徒の**一致**にほかなりません。神はそれを望まれ、それを愛しておられます。それについては、先に書きました。それは神の御霊が造り出されたものです。御霊だけが、この一致を可能にし、体験できるものにしてくださいます。けれども、それは壊れやすく傷つきやすいので、私たちはそれを**貴重な宝**のように守り、保たなければなりません。**御霊による一致**は、神の宝なのです。それこそ、神の心が切望しているものであり、神ご自身のご性質と永遠のご計画に根ざしているものです。この一致を、神は私たちに贈ってくださいました。それは、神のすべての息子、娘たちの、目に見える、生きられた、実際的な一致です。**それは画一性でも統一化でもなく、イベントでもなく、結びつこうとする決断、つまりイエスにある、あらゆる人種や社会階層やタイプの、実にさまざまな人々の無条件の結束なのです。**ですから、一つのからだとして一つであることには、私たちのあらゆる注意と労苦を注ぐ価値があります。私たちは平和の絆によって、いわば互いに縛

り合わされるようにして、結び合わされているべきです。そうしてこそ、この尊い一致は実際に保たれるのです。この平和を、決して逃さないように追い求めなければなりません。

すばらしい一致とその現れ 4:4-6

すべての聖徒、すべての弟子たちのこの一致は、七重の一致に基づいています。それは私たちよりも大きいのに、私たちはその一部なのです。私たちはその中に根を下ろしています。私たちを通して、それは目に見えるものとなります――一つのからだ、新しい人、全世界のすべての息子と娘たちから成り、神の御霊によって造られたもの。

一つの御霊――結び合わせる方であって、分裂を生む多くの霊ではありません。

一つの望み――私たちを神の大いなる壮大なゴールへと向けさせ、一つにする望みです。

ただひとりの主イエス・キリスト――すべての人の主で、この世のあらゆる主人やカエサルたちよりも偉大な方、私たちが皆喜んでお仕えする方です。

一つの信仰――使徒たちと預言者たちによって私たちに宣べ伝えられ、手渡された信仰が、私たちを一つにします。

一つのバプテスマ――水によるこのバプテスマが私たちのしるしで、それによってすべての弟子は、神と人々と目に見えない力の前で、キリストが死んでよみがえられたこと、そして私たちもキリストと共に死んでよみがえったことを証しします。

一人のまことの生ける神、父――神のすべての息子、娘たちの父で、この一致の中で働き、すべての上に君臨し、すべてを通して働き、すべてのうちに住まわれる方です。

キリストは、一致に仕える恵みの賜物を分け与えられる 4:7-11

私パウロに神の恵みが与えられたように、この御霊による一致に属するすべての人に、特別な恵みが与えられています。一人ひとりに与えられたこの恵みの賜物によって、各自がこの一致に仕えるのです。そして、一致を保つのに手を貸すのです。どんなに違いがあっても。栄光を受けた私たちの主イエスは、その賜物をすべての弟子に、しかも一人ひとりに、神の知恵によってそれぞれにふさわしく割り当てて与えてくださいました。**一人ひとりが担い、果たすことができるように。**

キリストが私たち一人ひとりに分け与えてくださったこれらの賜物は、キリストの圧倒的な勝利の結果です。私たちがこの恵みを受けられるように、キリストがすべてをささげてくださったことを、決して忘れないでください！私が思い起こすのは詩篇68篇で、そこでは主が、霊的な戦いの中でバシャンの山、すなわちヘルモンに登り、それを征服する力ある戦士として語られています。力ある敵、バシャンの雄牛たちとは、私がこれまで何度も語ってきた闇の力のことです。それらは打ち負かされ、捕らわれて引き下ろされます。それらは主の戦利品です。同じように、キリストは、あなたがたをも捕らえていたこれらの力に、ゴルゴタの十字架によって勝利されました。**キリストは勝利を収め、凱旋して天上の世界へと上られたのです。**そしてそこから、ペンテコステの日に、ご自分の御霊においてエルサレムに降って来られました。キリストの御霊は豊かな賜物を携えて降って来られ、それをご自分のからだである教会に分け与えてくださいました。上られたことも降って来られたことも、どちらも凱旋行進です。キリストは、勝利を収めた戦士として、王の気前よさで私たちに賜物を分け与えるために、地上へ、私たちのところへ降って来られたのです。死んで死からよみがえられたキリストは、ご自分の栄光に満ちた臨在ですべてを満たすために、神の天の御座へと上られ

ました。宇宙の隅々も、私たちの日々の生活も、キリストで満たされるべきであり、また満たされるのです。

働く恵みの賜物――奉仕、一致、知識、成長、成熟、真理、そして愛 4:11-16

キリストは、天に上られた後、ご自分の教会をほったらかしにされたのでしょうか？いいえ、キリストはご自分の教会に、人々を賜物として与えてくださったのです。ここでは五つを挙げます。彼らはキリストによって、**使徒、預言者、伝道者、牧師、教師**としての賜物と能力を与えられました。超自然的な、霊的な賜物を用いた彼らの奉仕と働きは、すべての聖徒、すべての弟子が、それぞれの特別な奉仕のために整えられ、備えられるためのものです。そのためにこそ、彼らは**皆**、キリストから恵みの賜物を受けたのです。誰もが賜物を受け、それと共に務めを受けました。賜物と務めは、この五つの奉仕によって見いだされ、伸ばされ、また求められるべきなのです。

この五つの賜物の奉仕は、御霊による一致に属するすべての人の奉仕と同じように、キリストのからだを建て上げ、守るためのものです。私たちが地上にいる間、このキリストの霊的なからだには、そのすべての部分、すべての器官の、積極的で献身的な働きと参加が必要です。私たちはすでに今キリストのからだですが、それを実際に生きることも求められています。建て上げと成長の目標は、**信仰の一致と、神の御子を知る知識です**。私たちは皆、途上にあり、部分的にしか知りません。時には無知で、知らず知らずのうちに誤った確信にしがみつき、神の御子を十分はっきりと知らずにいます。だからこそ、私たちには賜物を持ったほかの人たちが必要なのです。私たちは**共に**成長し、大人になるべきなのです。大人として十分に成熟するまで。それが定められた目標です。この大人であることとは、キリストの満ち満ちた豊かさにほかなりません。

整えられることと成長することが必要なのは、私たちがもはや子どものように未熟なままでいないためです。未熟とは、何事も神の視点から判断したり評価したりできないということです。信仰において前進しなければ、私たちは、舵を失って風にあちこち吹き流されるヨットのようになります。偽りの

教えと偽りの教師たちの風が、私たちを吹き飛ばしてしまいかねません。こうした偽りの教えは、意図的なごまかしであることさえ珍しくなく、まさに未熟な者たちを惑わすために、巧妙な誤りとして考え出されたものです。**ですから、もう赤ん坊や幼児のままでいないでください！**

むしろ真実であり、真理にしっかりととどまってください。ただし、互いへの愛をもって、知ったかぶりをせずに。そうです、あなたがたが行うすべてのことが、私たちがかしらであるキリストへと成長していくことに役立つようにしてください。そしてキリストから、からだ全体が、この天の本部から霊的に養われることによって成長するのです。キリストによって、多くの弟子から成るからだは、完全に組み合わされ、結び合わされています。霊的な関節、つまり養いを供給するあらゆるつなぎ目によって、また筋肉や腱によって、からだは支えられ、養われます。弟子は皆、受けた恵みに応じて、からだの成長に貢献します。あるいは、受けた恵みを自分のためだけにしまい込み、人に手渡さないなら、貢献しないこともあります。このからだの各部分、各弟子が奉仕によってもたらすものが、全体の前進と成長となるのです。それは全地に広がっているので、私たちには直接、全体として見ることはできませんが、神はそれを見ておられ、全体をご自分の御手に握っておられます。

どの体も成長するために自らを築き、生命を保ち、その働きを営むように、キリストのからだも、神の愛のうちに自らを建て上げていきます。これは、キリストの一つのからだである世界中の教会に当てはまります。たとえ私たちが、そのからだとその一致をまったく、あるいはほとんど見ることができないとしても。

神なしの生き方とはどのようなものか 4:17-19

この成長と成熟は、あなたがたがかつて属していた諸国の民のような生き方を、もうしないときにだけ実を結びます。私は主にあって、あなたがたに強く願います。彼らは、自分たちの無意味で浅はかな人生観を固く信じ込み、福音を拒んでいます。神について、そしてそれゆえ自分自身について、彼らの考えと理解はすっかり暗くなっています。先に言ったように、彼らは神から離れ、いわば罪の中で死んでいます。彼らは神と共に生きるいのちを知らないので、すべてが欠けているのです。彼らは神について無知で、しかもその確信において石のように頑なです。自分の考えにコンクリートで固められたように。神から来るすべてのものに対して、完全に心を閉ざしています。その結果、彼らの多くは、何が良く、ふさわしく、有益で、正しいのかを感じ取る感覚をすっかり失ってしまいました。彼らに残され、彼らが自己実現の場としているのは、神が初めに創造において与えてくださったあらゆる良いものを、歯止めなく放蕩し、ゆがめることです。神がかつて祝福と喜びのために造られたものが、汚れへとねじ曲げられ、飽くことのない欲望と貪欲によって消費されています。こうして、多かれ少なかれこのように生きている諸国の民は、無意味さと空しさ、絶望、束縛、依存、そして滅びの中にいるのです。

どうすれば違う生き方ができるのか？ 4:20-24

このような生き方から私たちを連れ出すことができるのは、神だけです。**新しい人になるには、まさに死からのよみがえりが必要です。神はそれをなさいました。キリストにあって。**あなたがたがキリストを知ったとき、キリストは、あなたがたとはまさに正反対の方でした。イエスが告げた真理は、まったく別のものです。イエスの言葉を、私たちは学び、行うべきです。イエスの言葉と教えは、小アジアにいるあなたがたにも告げ知らされました。それは、まったく違う生き方へと導きます。私たちの古い生き方、諸国の民の生き方は、私たちの**古い人**に属しています。私たちはそれを、古く、すり切れて汚れたコートのように、脱ぎ捨てました。この古い人は、自分が浸っているあらゆる欺きの欲望によって、傷みやすい品物のように腐っていきます。古い人は、蒔いたものをすでに刈り取っています。古い人は、自分があがめ、拝んでいるものになっていきます。けれどもあなたがたは、神の御霊によって、考え方においても生き方の姿勢全体においても、絶えず新しくされ、生き生きとさせられています。互いの交わりによって、そしてキリストのことばによって。あなたがたが**新しい人**として生きるために。今、あなたがたは内側から良いことを選び取ります。確信をもって。なぜなら、あなたがたは新しい人を、誰の目にも見える新しい服のように着たからです。**この新しい人は、神によって造られたものです。**だからこそ、この新しい人は、神ご自身のご性質に完全にかなうように生きるのです。すなわち、神の**真理と義と聖さ**に。

新しい生き方とはどのようなものか 4:25-32

神が私たちの生き方をこれほど根本から新しくしてくださったことは、小さなことにも大きなことにも、さまざまな場面や行動にも表れます。**偽り**は、もうあってはなりません。いつも隣人と**真実**を語り、互いに見せかけを演じないでください。私たちは一つのからだの部分のように、有機的に互いに結ばれているのですから！信仰の兄弟姉妹として。ほかの人に対して怒るときには、罪を犯さないよう十分に気をつけてください。**怒り**は、自然な人間の感情です。けれども、私たちの怒りは、激しすぎ、度を越し、しかも正当でないために、たいていとは言わないまでも、しばしば罪深いものとなります。本来そうであってはならなかったのに、隣人に面と向かって怒ってしまったなら、必ず、できるだけ早い機会を見つけて、それを清算し、和解してください。そうしないなら、あなたがたは悪魔に場所を明け渡し、苦々しさを、そしてさらに多くの罪深い怒りを蒔く機会を、悪魔に与えることになります。**盗み**も、もうあってはなりません。楽をして何かを取るのではなく、そのために働いて稼いでください。そのように、自分の手を盗みのために使わないでください。反対に、その手を、どうしても必要としている人々、困窮している人々に分け与えるために使ってください。**どのように話すか**、何を言うかにも気をつけてください。腐った言葉、醜い言葉、人を傷つける言葉や愛のない言葉を口にしないこと、それが新しい人の特徴です。むしろ、勇気を与え、聞く人たちに神の恵みを大きく示す良い言葉を語ってください。

古い人のように何かを行い、話し、考えるなら、あなたがたは**神の聖霊を悲しませ、傷つけている**のです。聖霊は私たちのうちに住み、私たちが新しい人として生きるのを助けようとしておられるのです。聖霊は、私たちに押された**神の証印**です。聖霊は、私たちが贖いの日――私たちが相続財産を受け継ぐ日――に確かにたどり着くという保証であり、担保です。この聖霊は、罪に関してとても敏感です。私たちが時に思う以上に。聖霊のすぐ目の前

で、聖霊が私たちの生活から取り除こうとしておられることをまさに行うとしたら、それは悲しいことではありませんか。ですから、聖霊が新しい人において私たちに与えてくださったいのちを、生き抜こうではありませんか。私たちは、すでにそうであるものになるべきなのです！御霊が私たちにその力を与えてくださいます！

古い人同士の暮らしは、しばしば苦々しさ、激しい怒りと憤り、わめき声、互いへののののしりで満ちています。それはただただ悪意に満ちています。今、互いにまったく違う態度をとってください。彼らに対しても。**親切にし、思いやりを示し、ほかの人が苦しみや喪失を経験するときには細やかな心づかいをしてください。不当な仕打ちを受けたときには、いつでも赦し、恵みを示す用意をしていてください。**神もキリストによってあなたがたのすべてを赦してくださったのですから、それこそ、あなたがたにできる最も大きなことです。先に言ったように、あなたがた自身、神に対して何一つ償うことができず、完全に神の恵み深い赦しに頼るほかありませんでした。それこそ、あなたがたに与えられた最も大きなもの、神の恵みです。

キリスト者について「父親そっくり――イエスにそっくり」と言われたら、なんとすばらしいことか 5:1-2

あなたがたは神に愛されています！あなたがたは神の子どもです！神の永遠のいのちを、自分のうちに持っています。神の心があなたがたのうちで脈打っているのです――**あなたがたは、私たちの神であり天の父である方に倣う者となるべきであり、またそうなることができるのです**。それは何よりも、神の愛において目に見えるものとなります。愛のうちに生きましょう。互いの接し方も、私たちが行うすべてのことの動機も、愛であるように。私たちへの愛ゆえに、イエス・キリストは私たちのために、身代わりのささげ物として、ご自分を死に渡されました。これより大きな愛は、かつてありませんでした。この愛のささげ物こそ、神に喜ばれるものです。イエスの生涯の使命は、神にささげる全焼のささげ物でした。それは神をこの上なく敬い、あがめ、喜ばせました。私たちも、そうあるべきであり、またそうあることができるのです！

二つの視点から見た性 5:3-10

ここで私は、私たちの社会に、エペソのあなたがたのところに、そして全世界に広がっていることについて話します――**自由なセックス、性的な放縦、ポルノ、そして貪欲です**。それをきっぱりと拒んでください。思いの中でさえ！会話の中でも。こうした性の自由な発散は、私が今話した、自分を与え、自分をささげる愛とは何の関係もありません。まさにその正反対です。そこでは人が犠牲になります。このような性について冗談を言ったりふざけたりすること、いや、それについて話すことさえ、聖徒、神にささげられた人々にはふさわしくありません。その空しく無意味な生き方に二度と追いつかれないよう、それについてのあらゆる思いと言葉を追い出してください。ユーモアや上品な冗談は罪ではありませんが、恥ずべきことについての下品な冗談や、愚かで空しく浅はかなおしゃべりは、神の王国にふさわしくありません。あなたがたの心と思いから出てくるのは感謝、ただ感謝だけであるべきです。**神に感謝できることについて話してください。そして実際に感謝してください！**

あなたがたは、次のことをわきまえ、しっかりと保たなければなりません――男と女の結婚の契約の外で、あるいはそれなしに自由なセックスをする人々は、方向転換と悔い改めなしには、決して神と主イエスの王国に入ることはありません。彼らは性的な欲望に身を任せ、まるでそれが自分の拝む偶像であるかのように、その中で生きています。彼らは――あなたがたとは違って――神の未来に相続財産を持つことはありません。ですから、この件については、まるでそれがどれもたいして悪くなく、真剣に受けとめるほどのことではないかのように言われて、神のこの明確な立場から引き離されないでください。彼らは、自分たちは啓蒙されていて、光の中にいると思っています。欲望は抑えるのではなく思う存分発散させ、自己実現すべきだ、と彼らは主張します。けれども、それは偽りです。**人は自分自身を欺いているのです**。神は決してそのようにお考えになったことはないからです。

神の賜物としての性はすばらしく、聖なるもので、結婚のために与えられたものです。けれども、歯止めなく性的な欲望に従う人は、骨の髄まで不従順です。愛を、責任ある関わりと誠実さの中で生きないなら、そのような人生がどれほど空しく孤独であるかを、その人は生きているうちにすでに感じるでしょう。**最後には、神の聖なる正しい御怒りが彼らの上に下ります。そのとき私たちは、神の栄光と神の王としての支配の中で、自分の相続財産を受け継ぐことが許されるのです。**

ですから、こうした人々の仲間にならないでください。彼らの意見や人生観に同調したり、それを支持したりしないでください。あなたがたがまったく同じように生きていた時代は、もう決定的に過ぎ去ったのですから。あなたがたはもう闇の中にはいません。彼らではなく、あなたがたこそが、今やキリストの天の光の中に移されているのです。今、そのように生きてください。目の見える者として、こうした人々とはまったく違う仕方で。彼らのふるまいには加わらないでください。天の光は、私たちの生活にますます多くの実を結ばせます――善意、義、そして真実です。**今、あなたがたは、何が主に喜ばれるかを問います。自分に、あるいは周りの人々に何が気に入られるかを、まず問うことはしないでください。**

逆戻りはありうる――神の光へ戻る道もある 5:11-14

あなたがたのうちの誰かがそのような行いに逆戻りしたなら、それを沈黙で包み隠したり、ただ黙認したりして、こうした実を結ばない闇のわざに加担しないでください。勇気をもって、こうしたことをはっきりと名指ししてください。彼らがひそかに行っていることは、口にすることさえできないほど恥ずべきことです。そして、あなたがたがこれらのわざを非難するのは、それが自分の個人的な意見だからではなく、それが神の立場であり真理だからです。神の聖なる光が、これらの汚れた行いの本質を明らかにします。それが必ず彼らに害をもたらすことに、彼らの目を向けさせてください。あなたがたのうちの誰かがこの古い生き方に滑り落ちてしまったなら、よく知られたあの言葉を、心を込めて呼びかけてください――**目を覚ませ**、霊的な眠りとまどろみから。死者の中から起き上がれ、あなたは神を知らない人々のように生きているのだから。**そうすれば、キリストが再びあなたを照らし**、神の子どもとしてあなたがどこに属しているのかが見えるようになる。

いたるところに危険が――自分の日を数えることを教えてください 5:15-17

お気づきのように、神の子どもである私たちにとって、危険はいたるところに潜んでいます。自分がどのように生きているか、よく見てください。キリスト者として、無頓着に、うかつに、浅はかに生きないでください。知恵ある者として、自分自身と自分の身に起こることを、神の真理の光の中で吟味する者として生きてください。私たちの時代は悪いからです。私たちは中立地帯に生きているのではなく、神から遠く離れた社会の中で、人々の間に生きているのです。その社会は、私たちが再び自分たちの仲間になることを望んでいます。残された時間を、買い取るようにして生かしてください。私たちの生涯の日々は数えられていて、限りがあることを悟ってください。大切なのは、私たちの主であり師であるキリストのみこころ、ただそれだけです。キリストのみこころを行うことによってのみ、私たちは時間を本当に生かすことができるのです。

共に神を賛美する中で御霊に満たされる 5:18-21

お酒に酔いしれたり、酩酊したりしないでください。主の晩餐のために集まるときも。それによって、私が話してきた罪がしばしば起こるのです。酔う人は歯止めがきかなくなり、冷静さと自制を失います。あるいは、疲れて受け身になり、何もしなくなります。そうではなく、集まるときには、むしろ神の御霊に満たしていただいてください。**キリストの豊かさとキリストのことばについて語り合ってください**。そうです、共に心から主に向かって歌い、歓声を上げることによって、御霊により互いに刺激し合い、満たされてください。そして楽器を奏でてください。**詩篇と霊の歌による賛美が、私たちをキリストと天の喜びで満たしますように**。そうです、いつも、どんな折にも、心の中で、また声に出して、イエスの名によって私たちの神に感謝をささげてください。神の恵みを知り、それを日々体験している者にとって、それこそ唯一ふさわしい応答ではありませんか。その中で、皆、キリストに従うように、キリストを恐れ敬いつつ、互いに**従い合って**ください。互いに相手の上に立とうとしないでください。自分の意志を押し通さないでください。相手を自分よりも優れた者と考えてください。

神の愛：キリストとその教会――かしらとからだ――夫と妻――敬意と愛 5:22-33

妻であるあなたがたは、主の前で、自分の夫に従ってください。メシアが、ご自分の妻である教会、ご自分のからだのかしらであるのと同じように、この結婚の契約においては夫がかしらだからです。メシアは、ご自分のからだ、すなわちすべての弟子から成るご自分の教会の救い主です。教会が自分のかしらであるキリストに従っているように、妻たちも自分の夫に従っています。キリストと一つであることによって、教会は祝福されています。同じように、あなたがたの結婚の一体性も、妻たちにとって祝福となるべきです。

夫であるあなたがた、これは、主人が奴隷を支配するように、あるいは支配者が臣下を支配するように、あなたがたが妻を支配するという意味ではありません。そうではなく、メシアがご自分の教会を愛し、教会のためにご自分をすっかりささげられたのと同じように、自分の妻を愛してください。死に至るまで。メシアはそこまでなさったのです。**その愛はそれほど大きかったのです。**メシアは、教会をその惨めな状態から取り出し、ご自分のもとに引き寄せることによって、教会を完全に聖なるものとすることを目指されました。メシアは教会を聖なるものとすることによって、特別な存在とされました。メシアは、福音のことばという水で洗うことによって、教会をあらゆる罪の汚れからきよめなければなりませんでした。メシアは今もなおそれを続けておられ、絶えず、毎日、そこにメシアの変わらない愛が表れています。メシアは、ご自分が与えた美しさと栄光のすべてをまとった愛する花嫁を、花婿であるご自分の前に立たせたいと願っておられます。**花嫁には、かつてどこから来たのかを思い起こさせるものは、もう何もありません。花嫁は今やキリストの花嫁、聖く、傷のない者です。**

なぜ私はあなたがたにこう書くのでしょうか？夫であるあなたがたには、自分の体と同じように妻を愛し、大切にする責任と義務があるからです。あな

たがたの結婚の一体性はとても深く、妻を愛するとき、まるで自分の体を、いや自分自身を愛しているかのようなのです。しかも、自分本位な下心なしに。自分の体を憎む人などいないのですから、そうしないとしたらおかしなことです。メシアがご自分の教会にそうなさるように、人は自分の体を大切にし、養います。私たちはメシアのからだの部分なのですから。モーセは初めの部分で、神が結婚関係の成り立ちをどのように考えておられたかを書いています――男は父と母を離れ、すっかり自立して、もはや両親に頼らなくなります。男は自分の妻と結ばれて、新しい一つのものとなります。この二人は一つのからだとなるのです。二人の人がこのようにして一つになるのは、本当に大きな奥義で、何度でも驚かずにはいられません。**さらに大きなことに、まさにこれが、キリストとその教会にも当てはまるのです**。ですから、この現実の、深い模範を前にして、夫であるあなたがたは、それぞれ自分自身を愛するように自分の妻を愛してください。妻は夫を敬ってください。**愛と敬意が、日々あなたがたの結婚を形づくり**、そうして結婚を守るようにしてください。そうしてこそ、あなたがたは神から与えられたものの中で十分に花開き、祝福となることができるのです。これにまさる結婚のかたちはありません！

親と子 6:1-4

私は大人たちにだけ書いているのではありません。神は子どもたちにも語りかけておられます。主にあって、あなたがたの両親に従ってください。時には難しく、親も間違いを犯すとしても、それは良いことであり、正しいことです。モーセは十戒の中の一つを、子どもたちに向けています。それは約束の伴う唯一の戒めです――「あなたが幸せになり、地上で長く生きるために、あなたの父と母を敬え」。神のことばを信じ、神の言われることを行ってください！父親であるあなたがた、子どもたちが喜んで従えるように、愛情深く、細やかに子どもを育ててください。子どもたちに関心を持ってください。愛を示し、それを行動で証明してください！行き過ぎた厳しさや要求で、子どもたちの意欲をくじかないでください！子どもたちがあなたがたに反抗するなら、その原因はあなたがたにあるのかもしれません。模範となってください！主に喜ばれるような、良い考え方とふるまいができるよう、子どもたちを育ててください。

奴隷として天の主に喜ばれる 6:5-8

キリストにある奴隷であるあなたがた、地上の主人に、全力を尽くして従ってください。何でも疑ったり批判したりせず、しかもキリストに従うように。ただし、信者であれ信者でない者であれ、主人にほめられたいがために主人を喜ばせようとはしないでください。神のみこころを喜んで、心から行うキリストの奴隷として、主人に従ってください。ですから、人に対してではなく、直接主に対してするように、進んで、良い動機をもって仕え、従ってください。決して忘れないでください、あなたがたがすることは無駄にはなりません。それは報われるのです。主は、私たちが行うすべての良いことに報いてくださいます。時にはこの世においても、しかし確かに、私たちが新しい世界の栄光の中で相続財産を受け継ぐときに。もちろん、これはすべての弟子に当てはまります。

地上の主人と天の主 6:9

信者である主人たち、奴隷の所有者であるあなたがた、あなたがたも自分の奴隷に良くしてください。罰を与えるといって、絶えず彼らを脅すのはやめてください。彼らには天に、彼らの味方である偉大な主、師がおられるというのに、あなたがたが不当に彼らを脅しているところを、ちょっと想像してみてください。しかも、その方はあなたがたの主であり師でもあるのです。その方は、人を分け隔てせず、社会的な地位も問題にされません。その方の前では、誰もほかの人より多くの権利や恵みを持っていません。ですから脅してはいけません、まして兄弟たちに対してはなおさらです。

終わりまで続く戦い：強くなってください 6:10

そろそろ終わりに近づいてきました。私たちが毎日直面している霊的な戦いに向けて、あなたがたの心をしっかりと備えさせておきたいと思います。神の国が目に見えるかたちで来るまで、私たちは霊的には戦時下にあるのです。このことを決して忘れず、驚くこともしないでください。ですから私はまず、キリストの戦士として、主にあって強くなるようにと、あなたがたに呼びかけます。私が何度も語ってきた**主の大いなる力によって、強くなりなさい**。この力は、たいていは目立たず、派手でもなく、むしろ弱さを感じる中で体験されるものであっても、いつでも用意されています。

霊的な戦いのために武装する 6:11-12

神が私たちに備えようとしておられる、神のすべての武具を身に着けてください。悪魔の策略、悪だくみ、手口に立ち向かうために、私たちにはそれが必要です。悪魔はそれらを使って、私たち、神のすべての息子、娘たちを絶えず攻撃してきます。悪魔はすでにキリストに打ち負かされているのに、教会は悪魔の第一の攻撃目標なのです。**しかし神の武具がなければ、私たちは戦いが始まる前にもう負けているのです**。私たちの戦いは人間に対するものではなく、目に見えない世界の悪しき敵対する力に対するものです。敵対する存在の大軍勢がいて、それらはかつて神によって造られたときのさまざまな階級に分かれています。けれどもそれらは、悪魔の指揮のもとで造り主に反逆し、今や神がキリストにあって造られたすべてのものを滅ぼそうとしています。それらは、もろもろの支配であり、闇の世の支配者たちです。霊的な、罪に満ちた闇こそ、それらの住みかです。私たちに対して悪いことしか考えていない、悪の霊的な力です。ですから私はもう一度、いくつかの部品だけを取るのではなく、神のすべての武具を身に着けるようにと言います。私たちの人生には、これらの力が特に攻めてくる、悪い日があります。そのとき私たちは、キリストの力によって立ち向かわなければなりませんし、また立ち向かうことができます。けれども、そうした戦闘がまた一つ終わったときには、気を緩めないよう注意しなければなりません。そうして私たちは、比較的穏やかな時期に不意を突かれることのないよう、しっかりと立ち続けるのです。

武具の一つひとつ 6:13-17

神の武具は一つのまとまりを成していて、さまざまな部品から成り立っています。それらはすべて互いにつながっています。実のところ、この武具は、私がこの手紙であなたがたにすでに書いてきたすべてのことから成っています。腰の**帯**は、神について、キリストについて、そしてキリストがなさったことについての**真理**を表しています。けれども、すでに言ったように、それは私たちの生活における誠実さ、実践的な真実でもあります。**胸当て**は、神によって義と認められた者として私たちが身にまとっている、神の**義**を表しています。けれども私たちは、神の義を生きてもいて、神にかなうことを行います。どんな地形にも耐える頑丈な**履き物**は、私たち自身が受け入れることを許された平和の**福音**を、まだ悪しき力に捕らわれている人々のもとへ運んで行こうとする、私たちの備えと熱意を表しています。**盾**は、私たちの神がいつでも助けることのできる方なので、人生のどんな状況にあっても私たちがこの神に置いている**信仰**と信頼を表しています。私たちは信仰によって救われましたが、義人はまた、絶えず信仰によって生きるのです。そうしてこそ、私たちは悪い者のどこまでも悪意に満ちた火の矢を防ぎ、消すことができるのです。さらに、**救い**を語る**かぶと**で頭を守ることも必要です。考えること、聞くこと、見ることが傷つかずにいるために。救いは私たちのものです――私たちは救われ、日々救われ、やがて贖いの日に神の王国へと救い入れられるのです。この確信を、誰にも奪わせてはなりません。

神のことばである**御霊の剣**で、身を守ってください。けれども、戦いの中で前へも進んでください。この武器は、神ご自身が語られること、御霊によって生き生きと、狙いたがわず用いられる神のことばです。この点で私たちの偉大な模範であるイエスを見てください。

もう一つの武器：絶えず祈り、願い求めること 6:18-20

もう一つの武器を手に取ってください。おそらく最も大切な武器を。いつでも、祈りと切なる願いによって祈ってください。神の御霊に促されて。一人で、また共に。声に出して、また静かに。**どれほど祈っても、十分すぎることも、祈りすぎることもありません**。すべての聖徒たちのため、その心配事や苦しみのために、祈りと願いを続けてください。私が良い知らせを、ふさわしい的確な言葉でわかりやすく伝えることができるように、私のためにも祈ってください。そして、私が大胆でいられるように。私は、この手紙であなたがたに書いてきた福音の奥義を、どこででも宣べ伝えなければならないし、またそうしたいのです。たとえ今、鎖につながれて牢にいても、私はそのために遣わされているのです。私は話すのが下手なので、あなたがたのとりなしによって主の助けを経験することが、私にとって大切なのです。

結びの言葉 6:21-24

この手紙は、愛する兄弟であり、主にある私の忠実な奉仕者であるティキコが、あなたがたに届けます。彼は、私の様子をあなたがたに伝えることができるでしょう。私がどうしているかを、あなたがたに知ってほしいのです。そうすれば、あなたがたは私のために祈ることができ、慰めも受けるでしょう。

すべての信仰の兄弟姉妹に、私たちの父なる神と私たちの主イエス・キリストへの信頼のうちに、神の平和と愛がますます豊かにあるよう祈ります。

私たちの主イエス・キリストを心から愛するすべての人に、神の恵みがありますように！主の言われることを行って、主のうちにとどまる人たちに。そして、人々の前で主を告白する人たちに。